

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192000089		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・鳩ヶ谷		
所在地	埼玉県川口市里396-1		
自己評価作成日	平成 29年 9月 12日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 10月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に広い駐車スペースが有り、レクやイベントに活用しています。春にはバーベキュー、流しそうめん、秋祭りではご家族様と職員で協力し、ご家族様には毎年豚汁を作っています。今年度は団子汁を作りたいとの要望が既に出ています。外出レクでは開設から継続していますお花見ドライブとして、車窓からではありますが桜見学をしています。敷地内の畑では地域の方の協力で季節の花や野菜を作っており、収穫した野菜はおやつレクで調理し、皆さんでおいしく頂いております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地。近くには大規模店舗もある。高等学校、中学校と学校も多い。事業所では、利用者が楽しめるよう、4月のお花見ドライブ、夏のバーベキュー、敬老会、クリスマス等いろいろな行事を計画して実施している。このように、利用者は、季節ごとの楽しみを持っているが、自治会の夏祭りや盆踊りは場所が遠く、そちらには行くことが難しい状態のため、管理者は更にイベントの企画を充実させようとしている。イベントの企画は、職員にとっても気分転換が図ることができ、利用者の支援に良い効果があると考えている。また、事業所が第2の我が家として出来ることはしていただくとの考えから、下膳、食器ふき、テーブル拭きは、利用者が終わるまで手を出さず見守りをしたり、時には「みんなでやりましょう」と声掛けをして出来ることの継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく暮らす第2の我が家」を理念とし、職員一同で共有し、楽しい暮らしを意識してレクなどを行う様心掛けている	事業所理念は「楽しく暮らす第2の我が家」。「ここは家と同じですよ」と出来ることはやってみようを実践している。盛り付け、下膳等を利用者が終わるまで見守り続けることで利用者のADLの維持向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等近隣の方々と挨拶をかわしている	自治会の行事は少ないが、フラダンスの地域ボランティアが開設以来、3ヶ月に1回来てくれている。その他、手品や日本舞踊等の方も来てくれている。散歩の時、地域の人や近隣高校の生徒と挨拶を交わしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の際に近隣の子供たちにも参加を声かけしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事と家族会を一緒に行い意見や要望を頂き今後活かしている	行事に合わせて家族会を行い、同時に運営推進会議を行っている。家族と役所関係の方の出席に合わせ、平日、休日と曜日を交えて開催している。家族からは「今まで通りで十分、行事が楽しみ」との意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの研修の案内や事業所の情報を伝える様にしている	市からのメールで実務者研修や管理者研修に参加している。市のケアマネージャー交流会にも参加している。地域包括支援センターの方が運営推進会議や避難訓練に参加してくれ、関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて身体拘束についての勉強会を行いケアの実践に繋げている	会社には、身体拘束はしない方針がある。「これは拘束に当たりますか」と、ベッド柵や柵にクッションを置くことについて質問が出ている。職員には、具体例をあげながら、拘束に当たる行為について説明し、家族にも相談して決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議においても勉強する機会を持ち防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなどして学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などでも意見をお聞きしたり反映できるよう努めている	管理者は開設当初から勤務しており、最近では苦情ではなく相談を受けることが多い。「イベントの連絡は1ヶ月以上前に」という要望や外出の希望があり、個々に合った支援をしようと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談できる機会を作るよう配慮している	職員からの提案で、駐車場にテーブルを出して屋外ランチをした。フルーツレクリエーションで果物の盛り合わせを出したら、食事に感動がない方にも大好評だった。庭の畑を貸して野菜を栽培してもらい収穫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し環境整備等に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修等個々に参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の交流会、地域のネットワーク作りに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査訪問から情報を集め安心できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画書作成時に意向確認で把握している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向確認で求めている事を把握できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる家事手伝いをして頂き役に立っている事を実感して頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも協力頂き、通院、行事参加をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊等制限せず支援頂いている	近所の友人が遊びに来る時は、身元引受人に連絡している。年末に家に帰る方、家族と旅行に行く方、利用者は家族と過ごして戻ってくると、やさしくなっている。以前やっていた麻雀を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の生活において関わり支えあえるよう声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向確認書にて確認している 意思疎通が困難な方は生活を通じて判断させて頂いています	本人の意向は紙に残し、プラン作成時に活用している。言葉での表現が難しい方は気持ちが伝わりにくいが、食事中にほほえんでいたり、歌を歌うと楽しそう等の様子や、家族からも聞いて意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査訪問から把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報と入居後の実態にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議の中でカンファレンス、モニタリングを行いその後意見を反映し作成してる	6ヶ月のモニタリングは、管理者、ケアマネジャーが入ってフロア会議を行い、本人、家族の意向を基に意見の交換をしている。居室担当が細かなことを担当。プランの変更は、その都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書のサービスの内容にナンバリング、生活記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月毎モニタリングし、新しいニーズに対応していくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事面では希望により出前を取ったり、おやつや移動販売で購入したりしている 定期的にボランティアの訪問により楽しんで頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療契約を結び、体調管理が継続的に 行えるよう支援している	訪問診療は、内科、歯科月2回となっている。 ほとんどの方が訪問診療受診である。内科、 精神科の外部受診は家族対応としている。 夜間は24時間オンコール体制であり、看護師 に連絡後、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結び、相談や指示を受け対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には情報提供により安心して生活 できるよう対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの契約では主治医と相談し、対応できるようにご家族を含め情報を共有するようにしている	契約時に会社としての看取り、救急搬送等の 方針を説明している。看取りについては医師 との相談を促し、家族に気持ちを確認している。 看取りの経験は1名あり、看取りに入りま しょうと決めた翌日に亡くなられたというケ ースがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施し、水害を想定した避難訓練、備蓄品の整備にも努めている	河川が近いので、年2回の避難訓練のうち1回は水害の想定訓練も含めている。火災の場合は出火場所により逃げ方を決めて駐車場に集合としている。近隣の方とは、日頃から協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合った声かけ、利用者を尊重した対応が出来るよう努めている	書類は鍵付きのロッカー保管、パソコンはパスワード管理としている。入浴時等で、異性介助を拒否する方は今はいない。「何回も言われてるよ」等、他利用者からの言葉で誇りを損ねないよう、声掛けに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態、性格に合わせて意志を尊重できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせて過ごして頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者好みの洋服等、自由に選んで頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の盛りつけ、食器拭き、おやつ作り等、職員と一緒にしています	配膳、下膳、食器ふきに参加してもらっている。レクリエーションとして、ホットケーキ作りをし、作って食べる楽しみもある。ハンバーガーを買ってきて食べたり、駐車場にテーブルを出してランチを食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量が不足しないよう、声かけ対応している ご家族持ち込み飲み物も受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行っており、声かけ、介助、仕上げ等状態に合わせて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導、声かけを行っている	自分ではなかなか席を立たない方には、声掛けしている。排便のタイミングは人によって違うので、特に便秘の方は細かく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便量、パターンを把握し下剤服用状況に応じて対応している ヤクルト製品、乳製品、水分等で自然な排便に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入る順番、湯温、タイミング等出来る限り合わせて対応している	午後の入浴が基本だが、午前の中もある。同性介助でないと嫌だという方はいないが、男性の次の入浴は嫌だという方もいて順番の工夫をしている。ゆず湯、しょうぶ湯や温泉の入浴剤を入れて楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午後後に休息したり、就寝時間も状況に応じている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルを作り、常に確認できるようにしている 訪問診療時にも症状の変化を相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて出来る範囲の家事手伝いをお願いしている 好きな歌やゲームも楽しめるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春にはお花見ドライブを実施している 天候に合わせて散歩、外気浴できるよう努めている	春のお花見ドライブは介護タクシーを3台借りて桜の名所を回っている。車の中からなので小雨でも観桜できている。一緒に支援していきたいと考え、家族にも外出の協力をお願いしている。時間のある時には近くの商店にお菓子を買いに行くこともある。	個々のレベルに合った外出の機会を増やすことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来た時は使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じてとさせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から大きく光が入り明るいフロアとなっており、できるだけ季節に合った飾り付け、制作物等、飾るようにしている	装飾品は、共用部の壁にはあまり飾らず、場所を決めて飾っている。掲示板には「みんなの家・鳩ヶ谷通信」が掲示されている。各フロア入口には開設したH23年からの「思い出のアルバム」が置いてあり自由に見て楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は各人の相性を考えながら決め、会話が弾むよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人希望の位牌、写真等危険の無い物は持ち込んでいる	ベッド、クローゼット、チェスト、エアコン、洗面所等が標準装備で、シーツは1回/1週間は交換し、清潔にしている。ベッドの位置は、利用者の生活スタイルに合わせて変えている。馴染みの物は何でも持ち込み可である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレは分かりやすいよう表示している		